

永野新弥

恩師の電話

「家内が癌で亡くなりました」

ルルドの泉の水を持っていると言う知人に頼み、その水を分けてもらい、二人で奇跡を信じました。奇跡は起こると、亡くなる寸前まで思っていました。今思えば、一緒に過ごしている時そのものが奇跡でした。

今夜は寒いから、体に気をつけて」

先生の電話に、

私ができるのは相槌だけだった。浮かぶ言葉は全て空虚で無力だった。

翌朝、いつも通り、テーブルには妻の作った食事が並んでいた。

「この目玉焼き、美味しそうだ」と私は言った。

「失敗したけど、それは良かった」と妻は笑った。

「とても美味しい」と私は言った。

「それはとても良かった」と妻は笑った。

今日は春らしい一日になるでしょう、ラジオのニュースが聞こえてくる。

「春らしい青空ね」と窓の外を見て、妻が言った。

「とても春らしい青空だね」と私が笑うと、妻も笑った。